管理 No.204 【sLVFU2＋ベバシズマブ療法】　2023 年 12 月 14 日改訂

疾患名 ： 治癒切除不能な進行再発大腸がん　　1クール ： 14 日　　総クール数 ： PDまで継続

1. 薬剤

抗癌剤一般名	商品名	標準投与量	投与日	用量規制毒性
レボホリナートカルシウム	レボホリナート	200 mg/㎡	Day1	抗がん剤ではない　5-FUの抗腫瘍効果を増強
フルオロウラシル	5－FU	400 mg/㎡ 2400～(3000)mg/㎡	Day1	骨髄抑制(白血球減少)・下痢、口内炎
ベバシズマブ	ベバシズマブBS	5 mg/kg	Day1	

2. レジメン

投与日	Rp	投与方法	投与時間	使用薬剤名	標準投与量	備考
Day1	1	点滴静注 (本管)	キープ＆ フラッシュ用	生食 100mL		血管外漏出・逆血予防のルート確認 ケモ終了時ルートのフラッシュ用にも使用する ※全量投与しなくてもよい
	2	点滴静注 (本管)	90 分 (備考参照)	ベバシズマブ(100mg/4mL) (400mg/16mL) 生食 100mL	5mg/kg	初回投与時は必ず 90 分で投与、初回投与の忍容性が良好なら 2 回目は 60 分、2 回目も良好ならそれ以降は 30 分で投与可能
	3	点滴静注 (本管)	30 分	デカドロン(3.3 mg/1mL) 生食 50mL	2A	
	4	点滴静注 (本管)	120 分	レボホリナート (25 mg)(100 mg) 生食 500mL	200 mg/㎡	
	5	静注 (本管)	5 分	5－FU (250mg/5mL) (1000mg/20mL) 生食　20mL	400 mg/㎡	Rp3 終了後に投与
	6	持続静注 (CVﾎﾟｰﾄ)	46 時間	5－FU (250mg/5mL) (1000mg/20mL) 生食	2400 mg/㎡	バクスターインフューザーLV2.5 を使用 (2.5mL/hrのｲﾝﾌｭｰｻﾞｰを使用) 末梢ルートから投与の場合は、生食 500mL に 5－FU 半量を希釈し、23 時間ごと投与する

3. 初回投与基準

(1)　PS規定：　PS　0、1、(2)
(2)　白血球数≧3000/μL、血小板数≧10 万/μL
(3)　貧血傾向なし(ヘモグロビン≧9.0g/dL)
(4)　発熱、CRP上昇あるいは白血球増加(≧12000/μL)の感染兆候なし
(5)　腸閉塞、下痢なし
(6)　脳転移なし

4. 次クール開始基準 (2 クール目以降、投与前日又は当日に下記条件を満たさない場合は延期する。記以外は初回投与基準に準じる。)

(1)　白血球数≧3000/μL、血小板数≧7.5 万/μL
(2)　重篤な口内炎なし
(3)　総蛋白≧6.0g/dL、アルブミン≧3.0g/dL
(4)　タンパク尿≦2g/日
(5)　出血なし

次ページに続く

5. 減量・中止基準 （前クール投与後に下記のいずれかに該当した場合は減量する）

(1) Grade3 の血液毒性が認められた場合には副作用の回復を確認後5－FUの急速静注を 300 ㎎/㎡に減量すること
(2) Grade2 の下痢が認められた場合には、副作用の回復を確認後、5－FUの持続静注を 2000 ㎎/㎡に減量すること
(3) Grade4 の血液毒性、Grade3 の下痢（血便、脱水、電解質異常）が認められた場合には、投与を中止すること

＜ベバシズマブ中止基準＞

① ベバシズマブが原因と考えられる Grade3 以上の過敏症
② 消化管穿孔又は裂開が発現した場合
③ Grade3 以上の出血
④ Grade1 以上の喀血
⑤ 静脈血栓症・塞栓症、動脈血栓症・塞栓症が発現した場合
⑥ 薬剤でコントロールできない Grade3 以上の高血圧
⑦ Grade4 以上のタンパク尿
⑧ 可逆性後白質脳症症候群が発現した場合、中枢神経障害の症状又は画像所見が認められた場合

6. 投与時の注意点

(1) アジュバント治療、サードライン以降の治療には使用しないこと
(2) 3クール目以降は下痢、骨髄抑制の発現する頻度が高くなる傾向が見られるので注意すること
(3) 腹痛があった場合は消化管穿孔の可能性を考慮し、画像診断にて確認すること
(4) 大きな手術の術創が治癒していない場合は投与しないこと。手術後の投与は術後最低でも4～6週間あけること、CV ポート挿入後は1週間あけることが望ましい
(5) 消化管出血（下血・吐血）・粘膜出血（鼻出血、歯肉出血、膣出血）・肺出血（喀血）・脳出血に注意すること
(6) 血圧の測定と尿蛋白の検査を定期的におこなうこと
(7) 以前正常血圧であった場合で、Grade1 の高血圧（＞150/100mmHg）が発現した場合は降圧剤を使用する（ACE 阻害剤：ブロプレス等または Ca 拮抗薬：アムロジピン等）
(8) 動脈血栓塞栓症（脳血管発作、心筋梗塞など）静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症、肺塞栓症など）の症状に注意すること